



# 操作マニュアル 基本操作編

# e.Typist v.9.0 基本操作

## 目次

	ページ
1. e.Typist の起動	3
2. スキャナの設定	4
3. 原稿の取り込み	6
3-1. スキャナから	6
3-2. ファイルから	7
4. 画像の修正	8
5. 認識の設定	9
☆日本語以外の文書を認識する	9
6. 認識範囲の設定	10
6-1. 自動で設定	10
6-2. 手動で設定	10
☆レイアウト枠の表示	11
6-3. 枠の設定変更	12
7. 認識	13
7-1. 日本語の認識	13
7-2. 欧文の認識	14
8. 認識結果の修正	15
8-1. 全文解析	15
8-2. 候補文字での修正	15
8-3. 仮想キーボードでの修正	16
9. データ転送	17

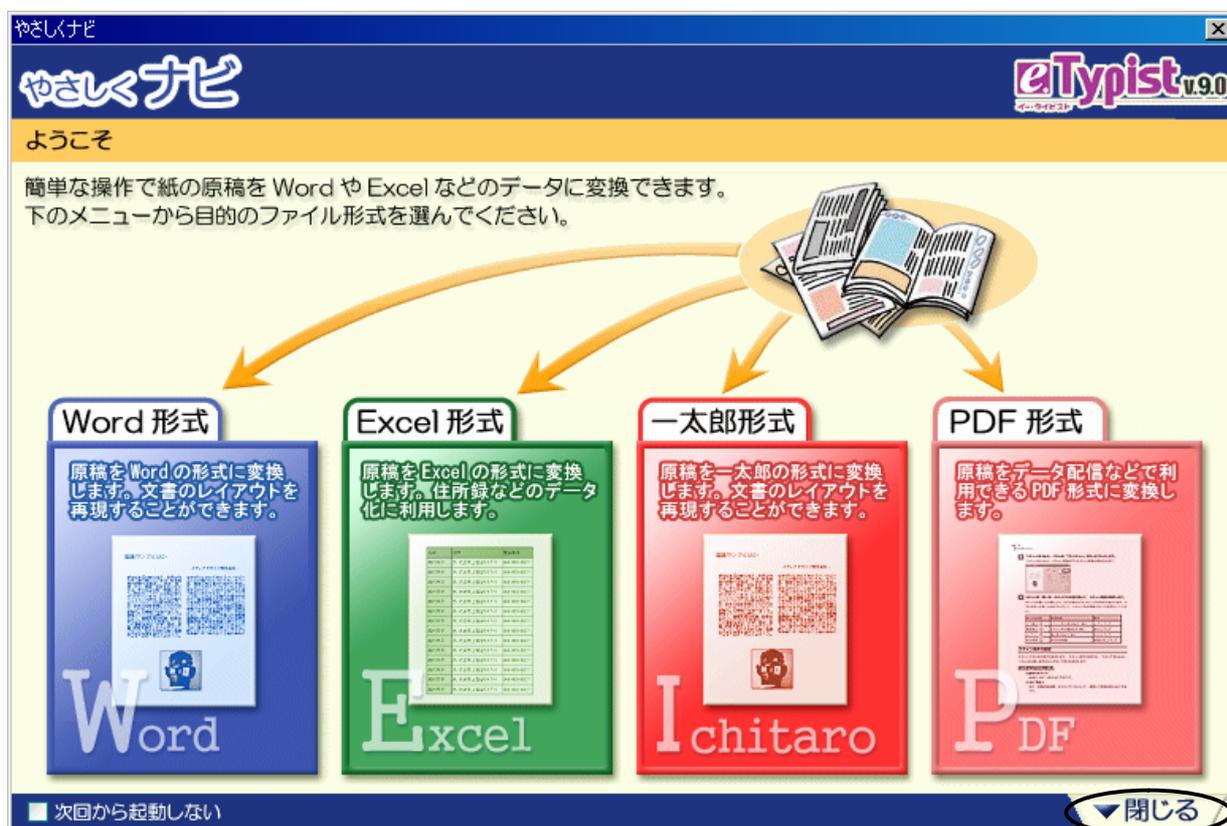
## 1. e.Typist の起動

「スタート」ボタンから「(すべての) プログラム」→「e.Typist v.9.0」→「e.Typist v.9.0」を選択します。



上記は Windows XP の画面になります。

e.Typist v.9.0 を起動すると下記の「やさしくナビ」が表示される場合、右下の「閉じる」をクリックし閉じてください。



## 2. スキャナの設定

「ツール(T)」メニューから「スキャナ設定(S)」を選択します。



「スキャナドライバの選択」ダイアログが表示されますので、お使いのスキャナドライバを選択し、クリックしてください。

※ 選択画面に表示する名称はお使いの環境によって変わります。

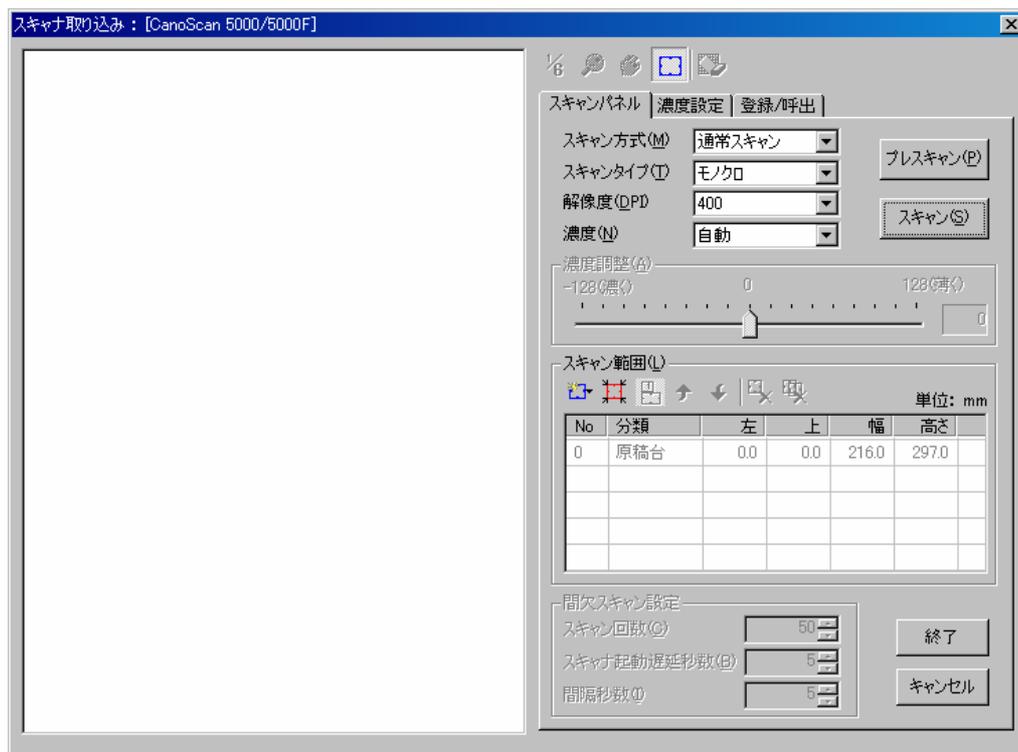
お使いのスキャナによってはチェックが付けられないものがあります。

※ チェックが入らない場合にはスキャナメーカーの取り込みパネルをお使い頂きます。

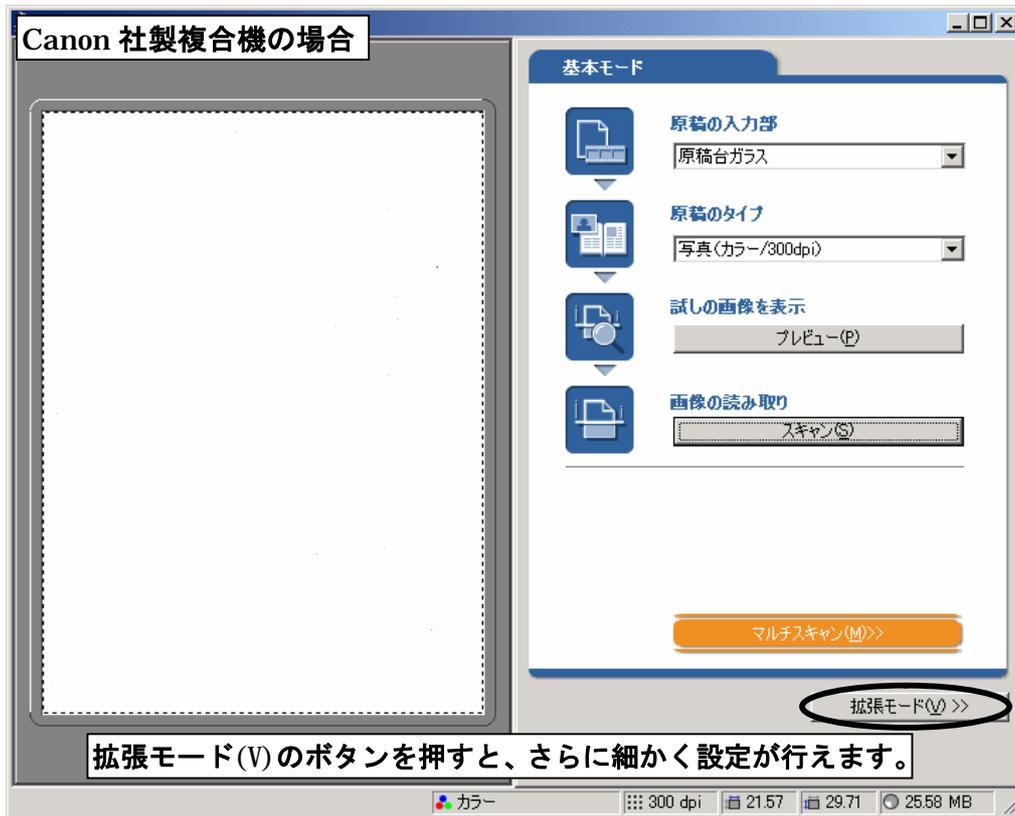
※ チェックの付けられるスキャナについては弊社ホームページ e.Typist v.9.0 のページより「専用スキャンユーティリティ 5 対応スキャナ」にてご確認頂けます。また、動作確認済みのスキャナも同ページにてご確認頂けます。

対応スキャナページ：[http://pac.mediadrive.jp/support/et/et90w\\_scanner.html](http://pac.mediadrive.jp/support/et/et90w_scanner.html)

「スキャナメーカーの Twain インターフェイスを使用しない」にチェックを付けると、スキャナから画像を読み取る際には下記の専用パネルが表示されます。



💡 「スキャナメーカーの Twain インターフェースを使用しない」にチェックが入らない場合は、以下のようにスキャナメーカーの取り込みパネルが表示されます。



### 3. 原稿の取り込み

#### 3-1. スキャナから

スキャナボタン  をクリックすると、スキャナの取り込み画面が表示されます。

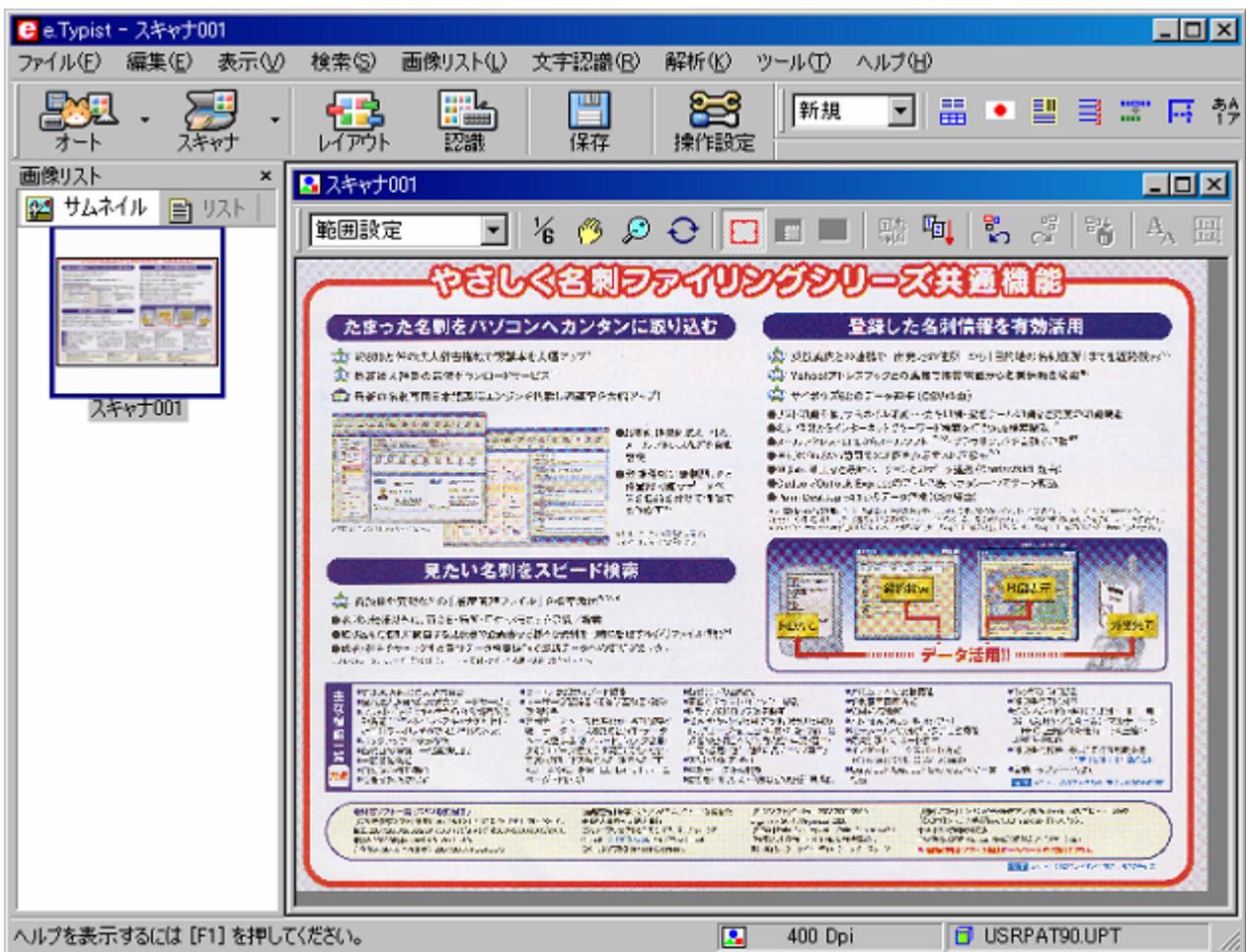
(弊社専用パネル以外の操作方法については各スキャナーメーカーの操作説明書をご参照ください)

- スキャンタイプは原稿にあわせて選んでください。
- 解像度は通常「400」または「300」に設定しておき、認識制度が悪い場合、原稿の文字が小さい場合は「600」で読み込んでください。

※ 新聞や雑誌などをスキャンする際は、裏写りに注意して濃度を調整してください。  
専用パネルの場合には、濃度を「ユーザー設定」に変更することで濃度調整のスライダーを使った調整が可能となります。

※ カラースキャンを行うとファイルサイズが大きくなり、表示に時間がかかることがあります。

取り込み画面を閉じると、e.Typist 上に読み込んだ画像が表示されます。



## 3-2. ファイルから

メニューバーの「ファイル」から「画像ファイルを開く」で開きたいファイルを指定します。  
e.Typeist で開くことの出来る画像は下記の通りです。

BMP・TIFF（非圧縮/Huffman/Packbits/G3/G4 各圧縮形式のシングル・マルチページ）・  
JPEG・PNG・PDF

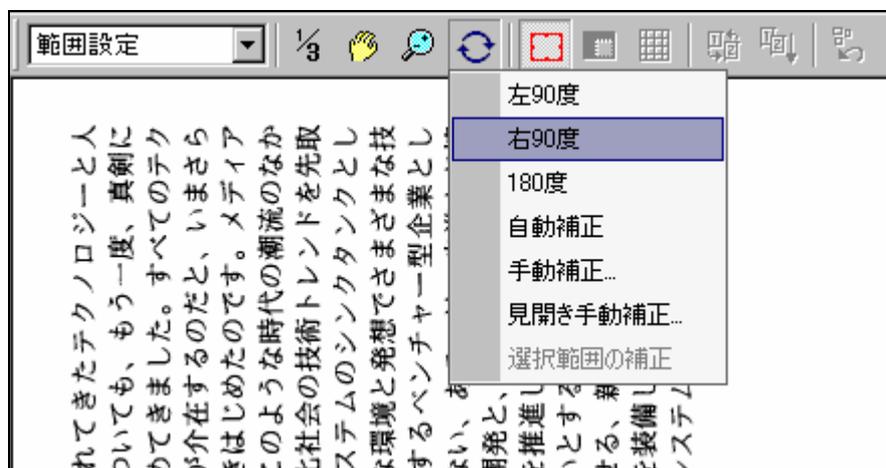
 原稿の向きは正しいですか？

※原稿の向きが正しくないと、認識の結果も正しく表示されません。

横向き原稿を取り込んだ時には、画像の回転が必要です。

回転ボタン  を使って正しい向きにしてください。

下図のような場合には右 90 度を選択すると正しい向きになります。

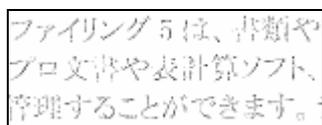


 原稿の状態は良好ですか？

※取り込んだ文字がはっきりと読める状態でないと、正しく認識できません。

下図のような場合には、濃度を調整しながら再度スキャンし直してください。

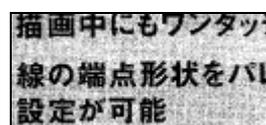
濃度が薄い



濃度が濃い

82	-102.5	237.5
86	-98.5	238
97	-87.5	263.2
107	-77.5	263.1

下地の色が濃い

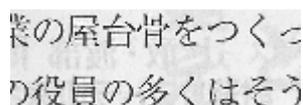


 カラーやグレースケールでスキャンする場合

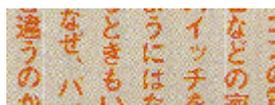
※裏写り、下地・文字の色が文字認識に影響を与える場合があります。

また、モノクロと比べファイルサイズが大きくなり表示にも時間がかかります。

裏写り



下地と文字の色が近い



## 4. 画像の修正

取り込んだ画像にゴミのようなものが入っている場合や、白抜き文字を認識させたい場合は画像修正を行います。



範囲設定をクリックし「画像修正」を選択します。

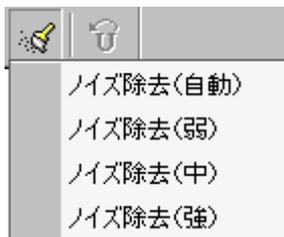
画像ウィンドウのツールバーのボタンが下記のように変わります。



### ★原稿のゴミを消す

ノイズ除去  ボタンを押すと、下記のように項目が表示されます。

ノイズを除去するレベルを選択してください。



ノイズ除去でもきれいにならない場合には、消しゴム  ボタンを使ってゴミを消してください。

※ノイズ除去機能はモノクロでスキャンした時のみ使用できます。カラー、グレースケールでスキャンしたときは、消しゴムボタンでの削除となります。

※原稿の状態によっては文字まで除去されてしまう場合がありますのでご注意ください。

### ★白黒を反転する

下図のような白抜き文字の状態では認識ができません。

**活用の幅が**

この部分を「範囲設定」ツールで囲みます。

**活用の幅が**

この状態で「白黒反転」ボタン  をクリックします。

**活用の幅が**

このようになりました。これで認識が可能になります。

※モノクロでスキャンした時のみ使用できます。

●画像の修正が終わったら「画像修正」を「範囲設定」に戻してください。

## 5. 認識の設定

レイアウト枠を作る前に設定を行うと、全ての範囲が同じ条件で設定されます。

レイアウト枠を作った後に設定を行うと、それぞれの枠に対して設定をすることができます。

画面右上の属性ツールバー  で各設定を行います。

### ☆ 日本語以外の文書を認識する

e.Typist v.9.0 では、日本語・英語の他にドイツ語、フランス語など計 13 カ国語に対応しています。認識させたい原稿にあわせて「認識言語」を設定してください。

 ボタンをクリックすると、下図のように表示されますので「英語」を選択します。



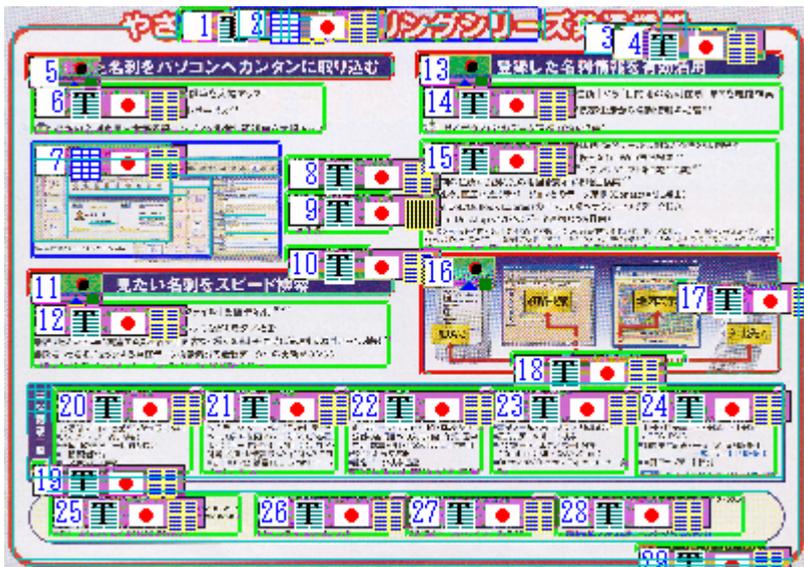
「英語」をクリックすると  (日の丸) となっていたボタンが  (星条旗) に変わります。

## 6. 認識範囲の設定

### 6-1. 自動で設定

レイアウトボタン  で認識する範囲に枠を作成します。

下図のように原稿全体に対してレイアウト枠が自動作成されます。



枠の色には、それぞれ次のような意味があります。

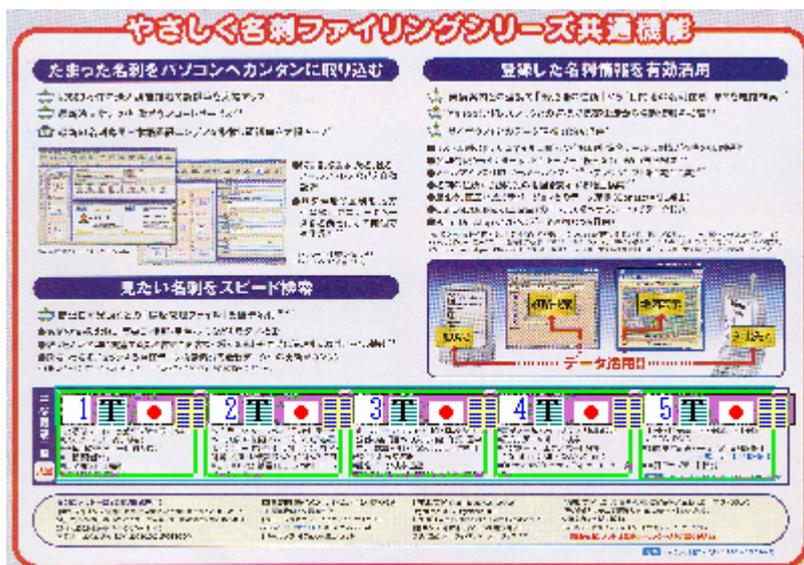
緑の枠—文章領域

青の枠—表領域

赤の枠—図領域

### 6-2. 手動で設定

認識する範囲を手動で設定します。



認識したい部分を、マウスの左ボタンを押したまま囲みます。

範囲設定した部分に対してレイアウト解析を行い、自動的に枠の作成・設定が行われます。

## ☆レイアウト枠の表示

レイアウト枠を作成すると、下図のような表示が付きます。この表示によって、それぞれの枠がどのように設定されているのか確認することができます。



 …文章領域

 …日本語

 …横一段

 …表領域

 …英語

 …横多段

 …図領域

 …縦一段

 …縦多段

この表示を確認し、間違って設定されている枠があれば設定の変更を行ってください。

なお、認識領域番号表示ボタン  で表示させる・させないの変更が可能です。

### 6-3. 枠の設定変更

作成したレイアウト枠の設定を確認しましょう。

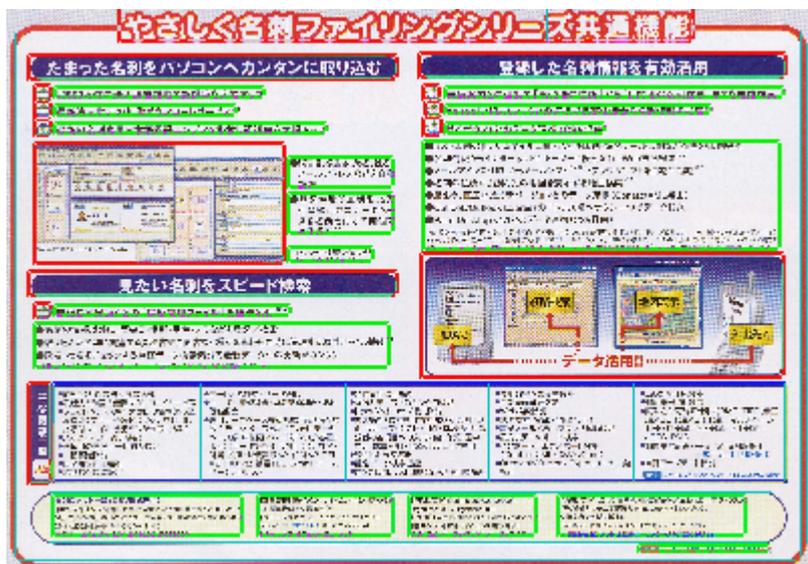


上図の場合、次の変更が必要です。

- ・「図領域」が「表領域」と判断されています。－①  
→「表領域」として判断された枠をクリックし「図領域」と変更を行います。  
「図領域」に設定変更した枠を広げ、図の部分すべて一つの枠に範囲指定します。
- ・表として認識したいところが文章領域と判断されているところがあります。－②  
→分割された枠の一つをクリックし「表」と変更します。  
「表領域」に変更した枠を広げ、同じ文章の部分すべて一つの枠に範囲指定します。

※枠を削除するには、削除したい枠をクリックしてキーボードの「Delete」キーで削除できます。すべての枠を削除する場合にはレイアウト取消ボタン  をクリックします。

認識種別指定、段組の指定などの変更を行い、下図のように設定を行いました。

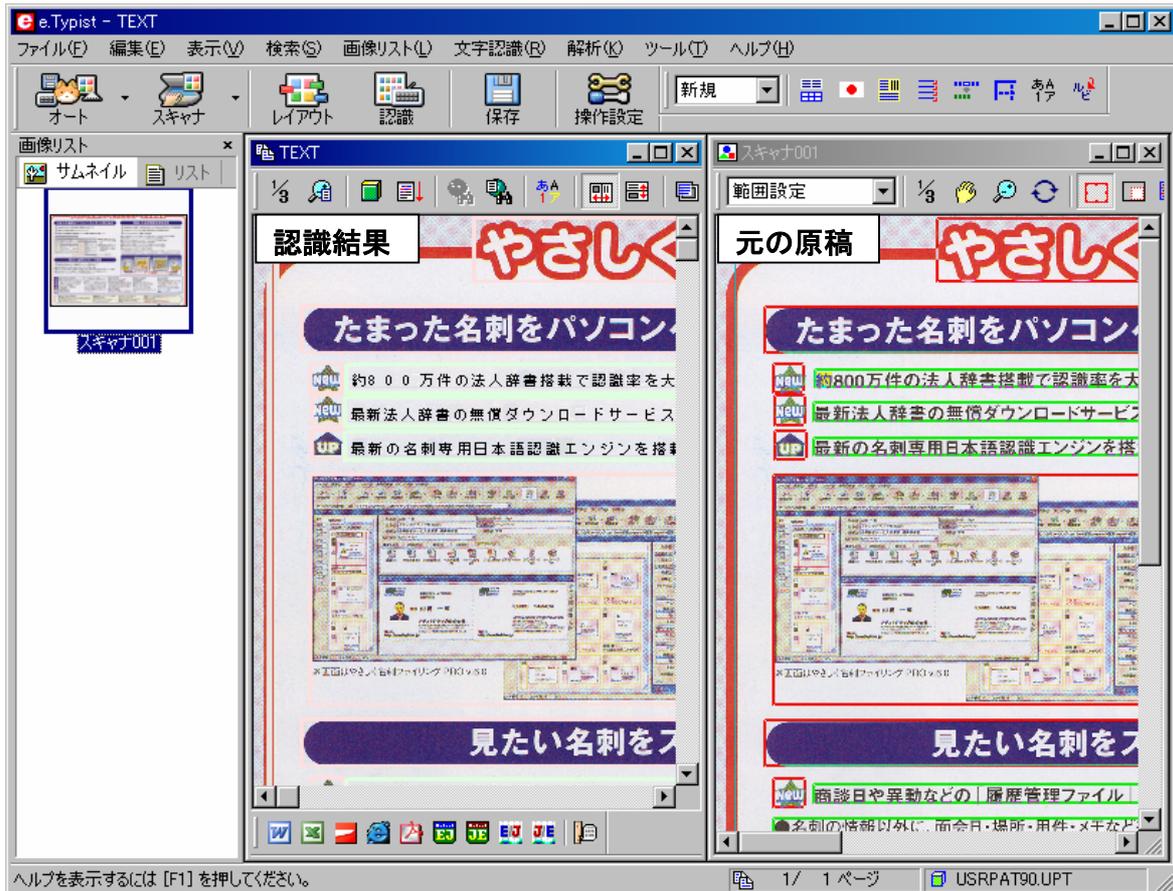


## 7. 認識

### 7-1. 日本語の認識

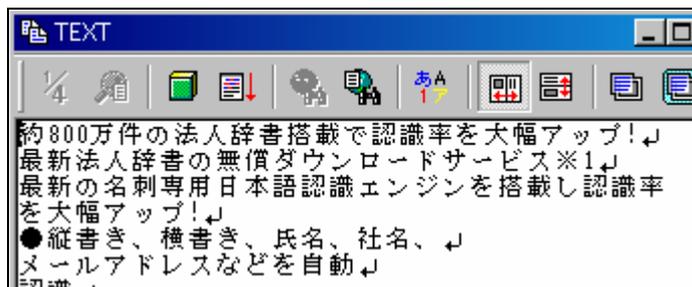
認識ボタン  を押すと認識作業が行われます。

認識が終わると、取り込んだ原稿と認識結果の二つに画面が分割されます。



 取り込んだ原稿に背景が含まれる場合、上記のように背景も合わせて表示されます。背景表示の有無は「表示」メニュー→「テキストの背景に画像を表示」で切り替えることができます。

 認識した文字だけを確認したい場合には、TEXT ウィンドウの表示が変更されます。「表示」メニュー→「テキスト表示モード」で「簡易表示」を選択してください。「簡易表示」モードでは、認識した文字だけが左詰で表示されます。

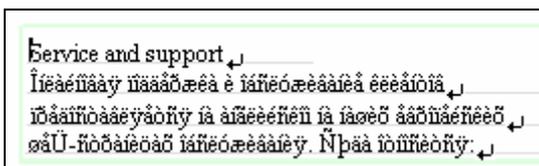


## 7-2. 欧文の認識

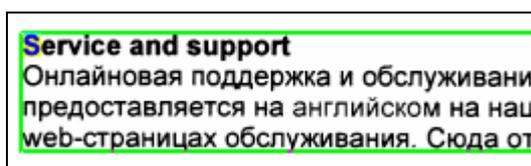
日本語・英語以外の言語を認識した場合、正しく表示されないことがあります。

下図はロシア語を認識したものです。

認識結果

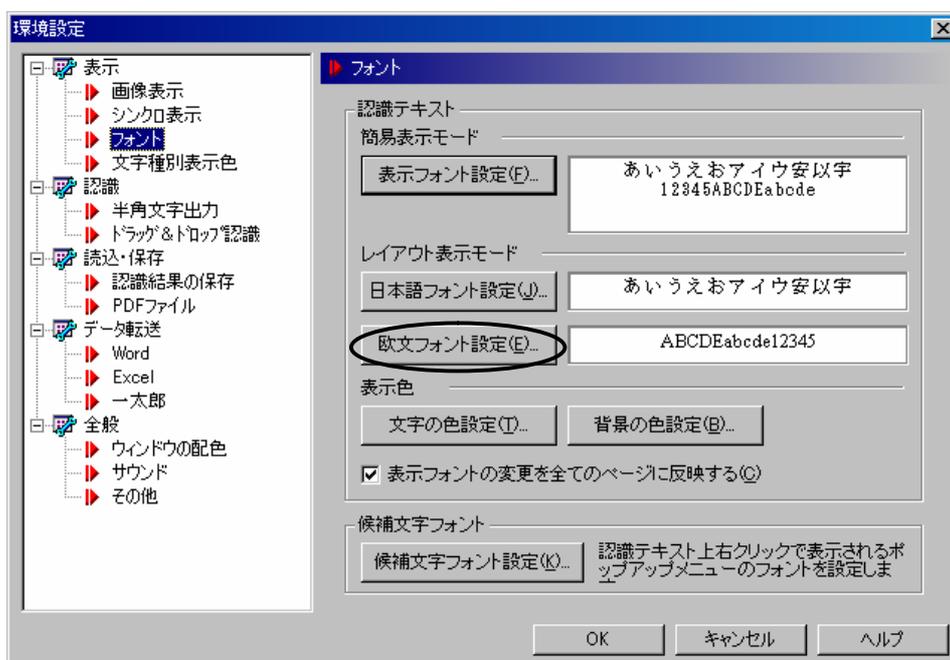


元原稿



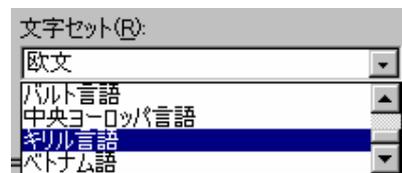
このような場合には、TEXT ウィンドウのフォント設定が必要です。

「ツール」メニュー→「環境設定」→「フォント」を開き、「レイアウト表示モード」の「欧文フォント設定」をクリックします。

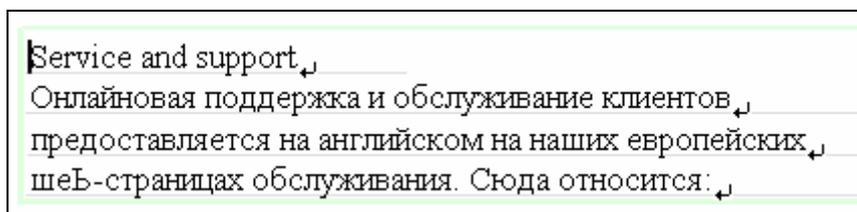


文字セットを認識言語に合わせて変更してください。

ロシア語を認識した場合には「キリル言語」に変更します。



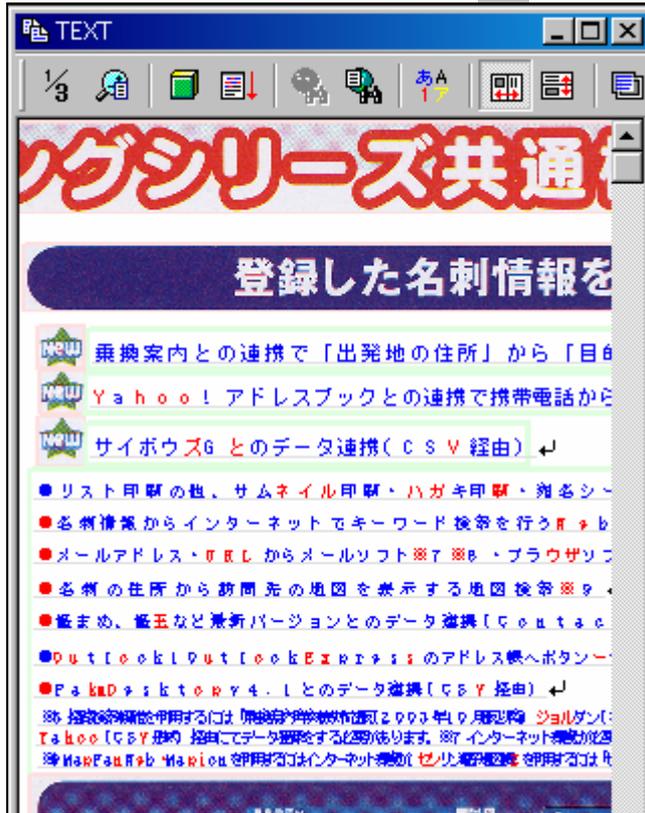
文字セットを正しく設定すると、下図のように正しい文字で表示されます。



## 8. 認識結果の修正

### 8-1. 全文解析

TEXT ウィンドウの全文解析ボタンを押します。



文字が青と赤で表示されます。  
文字の色にはそれぞれ次のような  
意味があります。

**青文字**—正しいと判断された文字

**赤文字**—誤り、また前後の文字に  
誤りの可能性

青文字であっても間違っ  
て認識されている可能性  
があります。

反対に、赤文字であつても  
正しい可能性がありま  
す。

全文解析は、一つの目安  
としてお使いください。

### 8-2. 候補文字での修正

文字を修正する方法として、候補文字での修正、キーボードから直接入力での修正と二通りの方法があります。

**訪問先**

左図の場合、「訪問先」の「問」を「間」と間違っています。

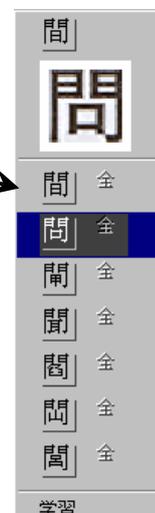
間違っている「間」という文字をマウスで右クリックします。

右図のように候補文字が表示されますので、リストの3番目以降の文字の中から正しい文字を選択します。

※ ここに正しい文字が表示されていない場合には、キーボードから直接正しい文字を入力してください。

※ 「表示」メニュー→「ツールバー」→「候補文字表示」

上記の項目にチェックを付けると、文字を右クリックしなくても TEXT ウィンドウ内に候補文字が表示されます。



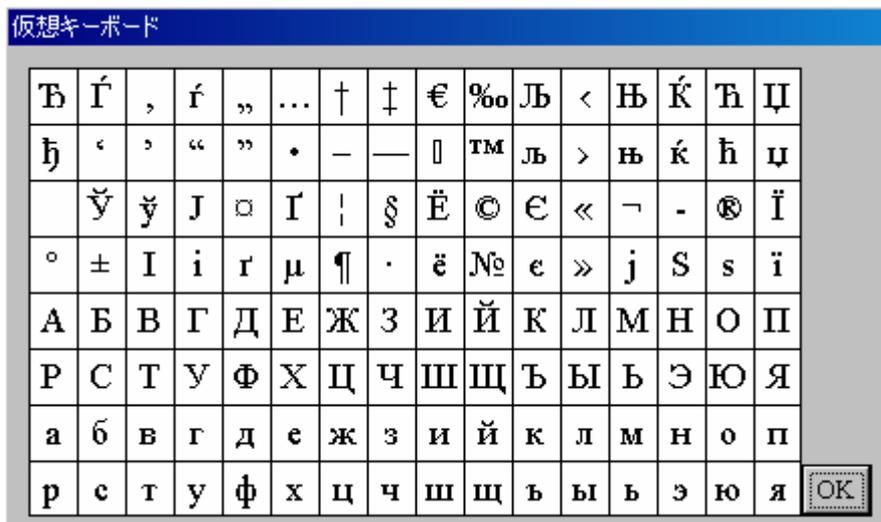
### 8-3. 仮想キーボードでの修正

日本語・英語以外の言語を認識した場合、アクセント記号など特殊な文字を使用しているため、通常のキーボードからの修正が行えません。

そのような場合「仮想キーボード」を使用して修正します。

TEXT ウィンドウに表示されている仮想キーボード  ボタンをクリックします。

下図のような仮想キーボードが表示されます



表示された仮想キーボードをクリックし、文字を入力してください。

※日本語で認識を行った場合には仮想キーボードをお使い頂くことができません。

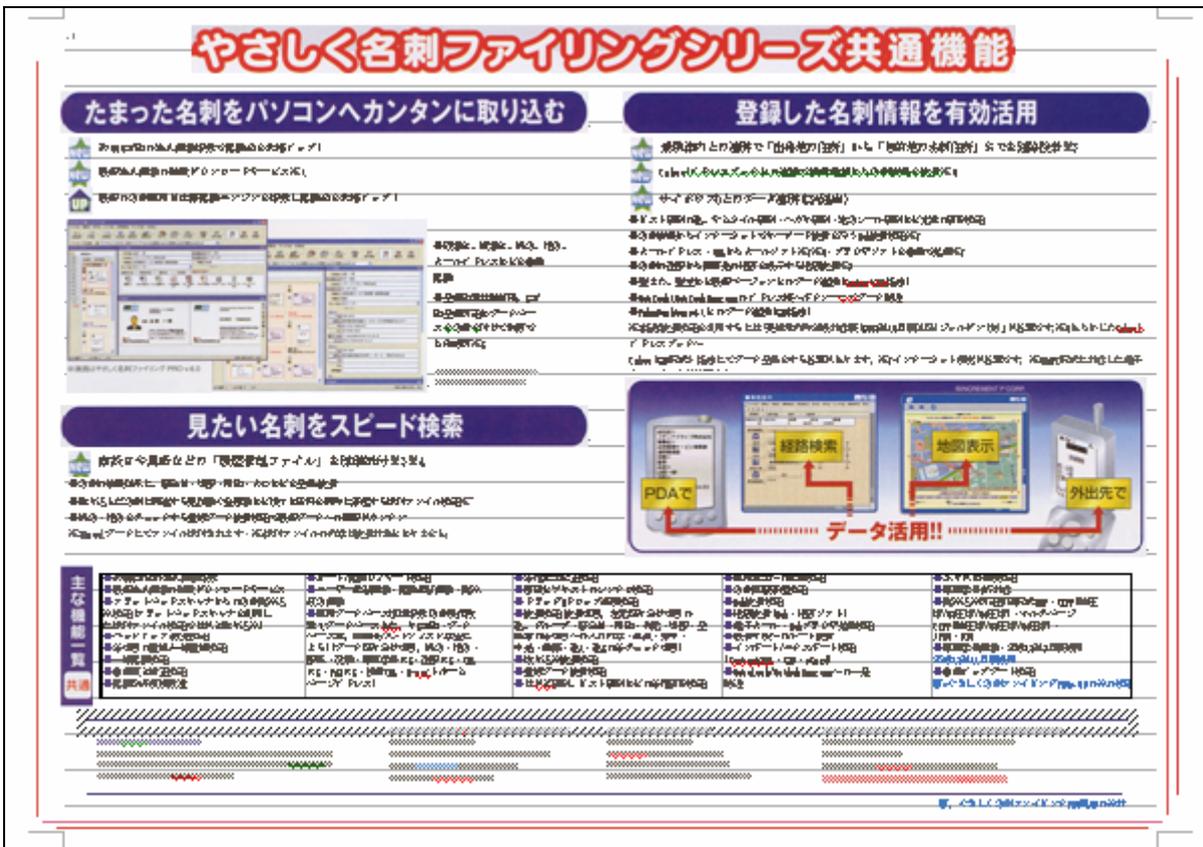
## 9. データ転送

文字の修正が終わったら、データ転送ツールバー の中から転送したいアプリケーションのボタンをクリックします。

※パソコンにインストールされているアプリケーションによって表示は変わります。

ここでは、Microsoft Word  を選択します。

Microsoft Word が起動し、認識結果の文字が張り付きます。



**注意** レイアウトはある程度再現されますが、元の原稿と全く同じにはなりません。  
レイアウト、文字のサイズは転送後にそれぞれ修正を行ってください。

 データ転送は、環境設定の設定に従い転送されます。  
レイアウトの再現をしたくない場合、図領域を転送したくない場合、背景をそのまま転送したい場合などは、転送前に各項目の設定を変更しておきましょう。  
※「ツール」→「環境設定」を開き「データ転送」で設定が可能です。

 日本語・英語以外の言語を認識した場合、Word 以外では正しく表示出来ません。  
必ず Word へ転送してください。